



学芸員の仕事 体験

崇城大芸術学部の学生 展覧会を企画

崇城大の学生らが企画した「process」完成までのあしあと」の会場
 熊本市南区

学芸員資格の取得を目指す崇城大芸術学部の学生らが企画した展覧会「process」(プロセス)完成までのあしあと」が16日、熊本市南区のくまもと工芸会館で始まった。同学部の教員が制作過程で描いたスケッチや試作品などが完成作品と共に並ぶ。21日まで。

学芸員課程「博物館実習」の一環で、今年で6回目。受講する13人の学生らが企画から展示までを担い、学芸員の仕事を疑似体験する。

教員6人が制作した日本画やデザインの試作品と完成作品のほか、参考資料など計23点を出品。制作過程について、作者へのインタビューを基にした動画や解説パネルなどで紹介している。見た人が、作者のひらめきや思いなど、完成に至るまでの思考の過程を追体験できるといふ。

4年の井添陽子さんは「会場のレイアウトや解説文のパネル制作などに苦労した。学芸員の仕事の難しさを実感できた」と話していた。

(上島諒)